施設の長寿命化対策

米沢市広幡地域 農地・水・環境保全組織

地域住民による直営施工

老朽化した農業用施設の維持管理に労力や費用がかかり、苦労している―。このような悩みを抱えている地域は少なくない。米沢市の広幡地域でも、同様の悩みを抱えていた。

水田地帯である広幡地域の水路が造成されたのは40年以上前であり、多くが素掘り水路であった。水路は老朽化し、法面の崩壊が増えていったが、予算不足から土のうによる部分的な補修が限界で、維持管理に苦慮していた。

そこで広幡地域では、平成24年から「米沢市広幡地域農地・水・環境保全組織」により、農地・水・保全管理支払交付金に取組み、地域ぐるみで水路等の保全管理を開始。平成26年からは多面的機能支払交付金の取組みに移行した。

広幡地域の取組みの特徴は、施設の長寿命化の活動として、素掘り水路からコンクリート水路への更新を、地域住民の直営施工により実施したことにある。地域住民の数名が、重機の作業に必要な資格を取得して、建機メーカーから重機をリースし、地域住民の手により水路の更新を行った。

この取組みのメリットとして、広幡地区では直営施工により、水路更新の費用を外部発注と比較して、約4割削減することができた。また、作業の日当は交付金から支払われ、農家の冬場の稼ぎとなった。（作業時期は10月～3月）

組織の事務局長の島貫寿雄さんは、「役員は大変だが、この活動で得た出会いは宝。人と人とのつながりは財産になる。」と語ってくれた。広幡地域は水田443haを含む、複数の集落による広域の取組み。そのため合意形成の難しさはあるそうだが、その分様々な出会いもあり、「みんなでやるのは楽しい」そうだ。

米沢市広幡地域
農地・水・環境保全組織
事務局長　島貫 寿雄さん

完成までの流れ

地域の合意形成

各集落の班長により、班長会での話し合いや現地確認などを行い、施工順序を決定。

資格の取得

10 日ほどの技能実習で、「車両系建設機械」、「移動式クレーン」、「玉掛け」の資格を取得。

施　工

バックホウとユニック付き 2t 車をリースし、資材も揃ったところで、いざ施工。作業は３人１組の２班体制。

完　成

3 年間で敷設した水路は約 3km。安全性にも注意を払い、今までけが人はなし。

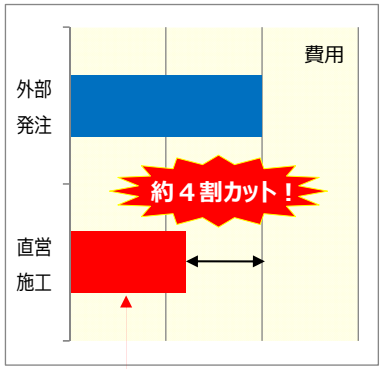
そのほかの取組み

植栽活動

生き物調査

学習会

費用の比較（広幡地域の場合）



主な支出：日当、資格の取得、資材、重機のリース代など